

令和 7 年度
指導員養成訓練 高度養成課程
専門課程担当者養成コース
シラバス



職業能力開発総合大学校

POLYTECHNIC UNIVERSITY(PTU)

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		職業能力開発原理応用 (Principles of Human Resource Development)	36H (2単位)	深江 裕忠
科目区分	能力開発学科		必修 / 選択	
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
職業能力開発の発展や改善・問題解決に資するため、職業能力開発についてその目的・基本理念を基礎とした評価の視点を習得する。特に、職業能力開発の理念、目的に関わる学説・理論について、職業訓練でどのように応用するのかを検討する。

到達目標
1 職業能力開発の目的・理念の特徴および配慮すべき事項を説明できる。 2 職業能力開発に関する主要関係用語の概念・定義を説明できる。 3 職業能力開発の理念・目的に関わる学説・理論について説明できる。 4 職業能力開発に関する理論に従った指導方法の活用方法を説明できる。

授業計画		備考
1	1. 職業訓練と職業訓練指導員 (1) 職業訓練とは？指導員とは？ (2) 職業訓練関係の用語 (3) 職業訓練法と職業能力開発促進法の変遷	講義
2	2. 指導員のノウハウ	講義、演習
3	(1) テキスト作成のノウハウ (2) 板書のノウハウ	
4	(3) スライドのノウハウ (4) セーフティネットのノウハウ	
5	3. 職業訓練に関する理論と指導	講義、演習
6	(1) マズローの欲求5段階説 (2) 技能の分類	
7	(3) 技能習熟曲線 (4) 職業についての意思決定理論	
8	(5) 到達目標と目標分析図 (6) 目標分析図とカリキュラム (7) リフレーミング (8) アサーション・アサーティブ (9) 傾聴スキルと訓練での活用	
9	4. 永遠のテーマと指導員の誇り	講義、演習

評価方法	個別課題 60%、グループ課題 40%
教科書及び参考書	教科書：自作テキスト
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター、Moodle
その他	授業ではmoodleを利用する。 グループワークへの積極的な参加を求める。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		キャリア・コンサルティング応用 (Applied Career Consulting)	36H (2 単位)	石田百合子
科目区分	能力開発学科		必修 / 選択	
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1 年次 前期		必修	

授業の目的と概要
1990 年初頭のバブル崩壊以降、国内で長らく続いていた終身雇用、年功序列、企業内組合といった日本型雇用慣行が崩れ始めている。また 1990 年代半ばから顕著となった人口減少や少子高齢化により、日本は世界に先駆けて人生 100 年時代へと突入している。このような雇用環境の大きな変化のなか、学卒者訓練におけるキャリア支援を考えるうえで、企業、就職支援、学校、地域の各領域で行われているキャリア支援に関する知識をおさえておくことが必要である。本科目では、主に企業領域、教育領域および地域領域におけるキャリア支援の体制や内容を理解し、指導員業務を遂行するうえで必要なキャリア支援の知識・スキル習得を目的とする。

到達目標
1 企業内の人材育成の仕組みやキャリア支援に関する動向を踏まえ、職業訓練が担うべきキャリア形成支援の方法を提案できる 2 教育機関におけるキャリア形成支援の現状や課題を踏まえ、学卒者に対する就職支援の必要事項や留意点を挙げることができる 3 地域領域におけるソーシャルサポート等の資源活用について説明できる 4 企業領域、教育領域、地域領域でのキャリア支援の現状や課題を踏まえ、キャリア教育・研修プログラムの設計ができる

授業計画		備考
1	ガイダンス / 企業の活動概要と職務体系 (組織構成、業務構成、能力構成)	
2	企業における人的資源管理 (採用、配属、評価、異動、タレントマネジメント、役職定年、定年、再雇用)	
3	企業におけるキャリア形成支援 (1) (キャリアカウンセリング、セルフキャリアドック、キャリア自律、リスキリング)	
4	企業におけるキャリア形成支援 (2) (ダイバーシティ・インクルージョン)	
5	教育機関におけるキャリア教育の現状 (発達段階に応じたキャリア教育)	
6	教育機関におけるキャリア形成支援とポートフォリオ (キャリア・パスポート、ジョブ・カード)	
7	キャリア教育・研修プログラムの設計	
8	地域領域におけるキャリア形成支援 (ニート・ひきこもりの支援)	
9	まとめ	

評価方法	演習への取組状況、小テスト・毎回のレポートおよびリフレクションペーパー、最終課題を総合的に判断して評価する
教科書及び参考書	適宜、講義レジュメを配布する。
主な使用機器等	パソコン、Moodle、プロジェクター、ビデオ
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	単位数	担当者
高度指導科		キャリア・コンサルティング応用 (Applied Career Consulting)	36H (2 単位)	教授 新目 真紀
科目区分	能力開発学科		必修 / 選択	
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1 年次 前期		必修	

授業の目的と概要
ものづくりの現場では、製品品質の向上や生産効率化だけでなく、戦略的に生産システムをマネジメントできる人材が必要となっている。本科目は工学的視点をベースとして、ものづくりに関する生産システムと、ものづくりの現場及び携わる人材についての理解を深める。またDX、GX、CXの進展に伴う生産活動がものづくり人材に及ぼす影響を検討し、人間行動モデルを提供した解決方法が提案できるようになることを目的とする。

到達目標
1 産業革命以降、ものづくり生産システムを支援する組織と人間がどのように変化してきたかを説明できる。 2 人間行動モデルには、どのようなものがあるかを説明できる。 3 生産システムの現場でおきる課題を解決する方法に人間行動モデルを適応する方法を推察できる。

授業計画		備考
1	オリエンテーション 生産組織における管理の考え方	講義・演習
2	も産業構造の変化 ITサービスの進展	講義・演習
3	産業構造の変化とは 製造業のサービス化、DX化、GX化とは	講義・演習
4	生産組織におけるものづくり人材 調査結果のまとめ	講義・演習
5	生産組織形成モデルの検討及び総括・発表(1)	講義・演習
6	ヒューマンファクターズ 人間行動モデル / 意思決定モデル	講義・演習
7	動機づけの基本原則 マズロー、マクレガー、アージェリス	講義・演習
8	ヒューマンファクター要因の応用領域 調査結果のまとめ	講義・演習
9	生産組織形成モデルの検討及び総括・発表(2)	講義・演習
10		
11		

評価方法	レポート、グループ発表、個人発表、授業参加度により総合的に評価する
教科書及び参考書	授業内で随時資料を配布する
主な使用機器等	パソコン、プロジェクター
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		コース開発法 (Training Course Development)	36H (2単位)	原 圭吾
科目区分	能力開発学科		必修 / 選択	
授業形態	講義			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>職業訓練指導員は、訓練コースの運営や見直し、新規訓練コースの開発は重要な業務である。このためには、産業界の技術動向や地域ニーズを十分に把握し、訓練コースの開発・運営に反映させる必要がある。</p> <p>そこで本科目では、まず訓練ニーズ把握のための調査分析手法を学ぶ。次にデータを活用するための統計学の活用方法と公的データの使い方を習得する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 訓練ニーズを把握するための調査が実施できる。 2 調査データを用いたニーズ分析ができる。 3 統計学に基づくデータ分析ができる。 4 公的データを利用した地域ニーズを把握できる。

授業計画		備考
1	<ol style="list-style-type: none"> 1 . ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1)シラバスの提示 (2)授業の流れ 2 . 調査の機能 <ol style="list-style-type: none"> (1)アンケート調査の仕組み (2)調査の4機能 (3)1次データと2次データ (4)定量調査と定性調査 	講義・演習
2	アンケート調査の企画 <ol style="list-style-type: none"> (1)企画・設計 (2)調査課題 (3)調査方法 (4)調査の流れ (5)ワーディング (6)回答誤差、バイアス 	講義・演習
3	データの可視化 <ol style="list-style-type: none"> (1)グラフの種類 (2)グラフのデザイン 	講義・演習
4	統計に基づくデータ分析 1 <ol style="list-style-type: none"> (1)代表値 (2)分析事例 (3)分散・標準偏差 (4)相関 	講義・演習
5	統計に基づくデータ分析2 <ol style="list-style-type: none"> (1)時系列データ (2)単回帰分析と重回帰分析 (3)予測 	講義・演習

授業計画		備考
6	統計に基づくデータ分析3 (1)検定 (2)信頼度	講義・演習
7	データの使い方 (1)オープンデータ (2)e-Stat (3)RESAS	講義・演習
8	データ分析演習 1 課題	演習
9	データ分析演習 2 課題	演習

評価方法	出席率、小テストまたは課題レポート
教科書及び参考書	なし
主な使用機器等	パソコン
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		コース開発法 (Training Course Development)	36H (2単位)	村上 智広
科目区分	能力開発学科		必修 / 選択	
授業形態	講義			
授業方法	■ 対面授業 ■ オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
<p>公共職業訓練施設は、事業主や在職者に対する人材育成支援も任務一つとされている。この授業は、指導員が事業主、団体等に対して人材育成支援業務に係った際の成果物である研修コースの開発法を習得することを目的としている。対象とする研修コースとしては、Off-JT(業務遂行の過程外で行われる人材育成)を想定した研修コースと、OJT(業務遂行の過程内で行われる人材育成)を想定した研修コースを対象とする。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 我が国における人材育成事情について現状把握や課題を調査・考察を行うことができる 2 ある業種を想定し、人材育成に係る情報提供のための各種資料の作成ができる 3 仮想事業所の人材育成上の課題を解決するための研修コースを開発できる 4 事業主や団体等を想定したOJT指導者の候補者への支援教材が開発できる

授業計画		備考
1	<p>ガイダンス</p> <p>(1) シラバスの提示と説明</p> <p>1. 人材育成フィールド調査</p> <p>(1) 周辺地域の事業主、団体等、及び能力開発関係機関の基本情報、人材育成事情の収集法</p>	講義、演習
2	<p>(2) 事業所、団体等の基本情報の収集分析演習</p> <p>(3) 人材育成機運づくりに向けた訪問面談演習 (ロールプレイ「訪問」、「折衝」など)</p>	講義、演習
3	<p>2. 人材育成機運づくり支援</p> <p>(1) 職業能力開発に関する機運づくり段階に有用な情報とは</p> <p>(2) 情報に関する支援ツールの概要と使用法</p> <p>情報ツール: TETRAS 所蔵 DB(能力体系 DB、訓練カリキュラム DB、訓練教材 DB 他)、訓練教科書、実技教科書、能開ジャーナル誌(事例集)、など</p> <p>(3) 事業主、団体等をつつ想定し人材育成に関わる参考資料の作成演習</p>	講義、演習
4	<p>3. 人材育成計画づくり支援</p> <p>(1) CDBAS 法による事業主、団体等を想定した人材育成計画法</p>	講義、演習
5	<p>(2) 仕事と能力の分析 (演習: CUDBASチャート作成)</p> <p>(3) 保有能力の把握 (演習: CUDBASチャートに基づく保有能力一覧表の作成および分析)</p>	講義、演習
6	<p>(4) 訓練必要点の抽出に基づく体系的研修コースの作成法 (演習: OJT、OFF-JT 研修コース計画)</p>	講義、演習
7	<p>4. 人材育成指導者(OJT 指導者)づくり支援</p> <p>(1) 事業主、団体等をつつ想定しOJT指導者への支援資料の作成法</p> <p>演習: 急所発見力向上技法演習、作業分解票の作成演習</p>	講義、演習
8	<p>(2) OJT 指導者養成手法としての指導の4活動</p> <p>演習: 指導の4活動チェックシートの適用演習</p>	講義、演習
9	<p>上記演習成果物に基づく人材育成支援参考資料の総括と提出 および 確認テスト</p>	課題提出、テスト

評価方法	確認テスト、 提出課題
------	-------------

教科書及び参考書	教科書: 自作テキスト 参考書: 「技能科学によるものづくり現場の技能・技術伝承」日科技連出版社、ISBN 978-4817196729 参考書: 企業内人材育成入門(中原淳:ダイヤモンド社:ISBN4-478-44055-7)
主な使用機器等	パソコン、はさみ、ノリ、ABLカード、DUTYカード、模造紙
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		高度訓練実施実践 (Training Implementation Practice)	162H (3単位)	濱田 勇
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要	
目的 (上位目標)	授業の実施にあたっては、内容の特徴に合わせた指導が必要である。特に専門課程では理論と実践、つまり学科・実技を融合する教育訓練がより一層求められる。一般に学科は実践から離れがち、実技は技術の体系から離れがちな訓練を行う傾向がみられる。こうした課題を克服する授業の計画、実践が求められる。
概要	<p>そこでこの科目では、学科・実技の特徴に合わせた授業の準備、授業の実践、評価ができるようになることを目的とする。</p> <p>この科目では、訓練実施の実務を通じて、学科、実技が扱う訓練内容の特徴を明らかにすること、それに応じた訓練の準備(指導案、教材)と訓練を実施する実践実習を行う。また、実施した訓練に対する評価、改善策を提案するまでの一連の手続きを実習する。</p>

到達目標
<p>(1) 学科・実技の特徴を踏まえた授業の目的、目標、指導項目を設定できる</p> <p>(2) 学科・実技の特徴を踏まえた授業を計画できる</p> <p>(3) 学科・実技の特徴を踏まえた指導案に沿った訓練を展開できる</p> <p>(4) 訓練を評価できる</p>

授業計画		備考
1	課題 SA1 学科授業、実技授業の指導案・教材類の作成	
2	課題 SA2 学科授業、実技授業の実践と授業評価	
3		

評価方法	<p>各課題の成果物の成否で評価する</p> <p>課題が到達目標に到達していない場合、課題の再提出を繰り返し求める</p> <p>評価基準： A : 欠点がない B : 少数の欠点がある C : 少数以上の欠点がある</p> <p>D : 計画内容を特定できなくする欠点または誤りがある(授業で扱った技術を適用していると認められない)</p>
教科書及び参考書	教科書： 自作テキスト
主な使用機器等	
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		コーディネート実践 (Coordinate Practice)	108H (2単位)	原 圭吾 村上 智広 濱田 勇
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
ニーズに沿った職業訓練コースを開発することは重要である。そのために各施設で行われているコースを調査する。そしてコースの改善・改良を行うために、オープンデータを活用し、データに基づいた訓練コースの立案を学ぶ。さらに、施設近隣の事業所を想定し、人材育成支援に関する訓練コーディネートの実践に取り組むことにより、人材育成計画の作成法およびOJT指導の支援法の実践力を向上することを目的とする。

到達目標
(1)訓練コースの提言ができること (2)オープンデータを活用できること (3)地域ニーズに応じた訓練計画を立案できること (4)担当地域における能力開発関係機関などに関する状況把握ができる (5)事業主、団体を想定した人材育成計画ならびに人材育成実施支援に関する見本資料が作成できる

授業計画		備考
1	1 科目ガイダンス 2 訓練コース調査 (1)訓練コース比較調査 (2)訓練コース提言	moodle (原)
2		
3		
4		
5		
6	3 オープンデータ活用演習 (1)地域状況調査 (2)地域構造調査 (3)訓練ニーズ調査 (4)課題設定と解決策立案	Moodle (原)
7		
8		
9		
10		
11		
12	4 オープンデータ活用演習発表・まとめ	Teams (原)
13		
14	5 人材育成フィールド調査実践 (1) 周辺地域の事業主、団体等、及び能力開発関係機関の基本情報の収集実践 (調査資料の作成)	Moodle (村上・濱田)
15		
16		
17		
18	6 人材育成支援演習 (1) 事業主、団体等を想定した計画づくり支援演習 (計画例の作成)	Moodle (村上・濱田)
19		
20		
21		
22	7 事業主、団体等を想定したOJT指導の候補者への支援演習 (OJT指導用作業マニュアル例の作成)	Moodle (村上・濱田)
23		
24		

授業計画		備考
25		
26		
27	まとめ	

評価方法	レポート、発表
教科書及び参考書	配布資料
主な使用機器等	パソコン
その他	Web会議システムにはMicrosoft Teamsを利用します。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		キャリア・コンサルティング実践 (Career Counseling Practice)	54H (1 単位)	新目 真紀
科目区分	能力開発実技			
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1 年次 前期		必修	

授業の目的と概要
指導員養成訓練の修了後、直ちに訓練指導の現場において、即戦力として活躍するために、施設と関わりがある就職（キャリア形成）支援施設（ハローワーク、若者サポートステーション、障害者職業センター、精神保健福祉センター）や、配属先施設内の就職（キャリア形成）支援体制、実施している就職支援サービス内容を理解できるようになることを目的とする。

到達目標
1．配属施設の就職（キャリア形成）支援体制と離職者訓練コース担当指導員との連携体制を説明できる。 2．配属施設で実施している就職（キャリア形成）支援サービスについて説明できる。 3．配属施設と関わりがある公的就職・就労支援施設にどのような施設があり、どのような支援をしているか説明できる。 4．配属施設で実施している離職者訓練コースの就職支援の内容および実施体制について説明できる。

授業計画		備考
1	キャリア・コンサルティング実践 の学習計画をたてる	施設実習
2	施設と関わりがある就職（キャリア形成）支援施設への訪問計画をたてる	施設実習
3		
4	施設と関わりがある就職（キャリア形成）支援施設を調査する	施設実習
5		
6	配属施設の就職支援体制と離職者訓練コース担当指導員との連携体制を調査する	施設実習
7		
8	配属施設で実施している就職支援（キャリア形成支援）サービスを調査する	施設実習
9		
10	配属施設で提供されている求人票の調査、配属施設の周辺地域の有効求人倍率・完全失業率の調査	施設実習
11		
12	調査した内容をレポートにまとめる	施設実習
13		
14	調査結果の発表	施設実習 Teams

評価方法	レポート・パワーポイントによる発表
教科書及び参考書	なし
主な使用機器等	パソコン
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		キャリア・コンサルティング実践 (Career Counseling Practice)	54H (1 単位)	石田 百合子
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1 年次 前期		必修	

授業の目的と概要
この科目は、講義・演習で学んだキャリア・コンサルティング力のうち、仕事理解支援について、職業能力開発現場で適応していくことを目指す科目です。離職者訓練コースへの周力的な参加や上司や同僚に対するインタビューを踏まえて、仕事理解支援となるプレゼンテーションを実施し、職業訓練受講生への仕事理解支援のあり方について実践的な知見を身につけることを目的とする。

到達目標
1 . 配属された施設における仕事支援に繋がる業務や情報を調査し、文章にて報告することができる。 2 . 先輩の指導員、就職支援担当者へのインタビューを計画・実施し、文章にて報告することができる。 3 . 上記 1、2 の実施内容をパワーポイントに整理して、他の受講者に説明することができる。

授業計画		備考
1	キャリア・コンサルティング実践 の学習計画をたてる	施設実習
2	配属施設の離職者訓練コース受講者の就職状況の調査	施設実習
3		
4	配属施設での離職者訓練および就職支援に関する理解を深める (1) 先輩指導員、就職支援担当者へのインタビュー計画をたてる	施設実習
5		
6		
7	配属施設での離職者訓練および就職支援に関する理解を深める (2) 先輩指導員へのインタビュー実施	施設実習
8	配属施設での離職者訓練および就職支援に関する理解を深める (3) 先輩指導員へのインタビュー実施	施設実習
9	配属施設での離職者訓練および就職支援に関する理解を深める (4) 就職支援担当者へのインタビュー実施	施設実習
10	調査した内容をレポートにまとめる	施設実習
11		
12	発表スライドの作成	施設実習
13	調査結果の発表	施設実習 Teams
14	最終レポートの提出	施設実習

評価方法	レポート・パワーポイントによる発表
教科書及び参考書	なし
主な使用機器等	パソコン
その他	

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名： 高度養成課程 専門課程担当者養成コース

専攻 / 科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
高度指導科		職業能力開発原理実践 (Practice of Human Resources Development Principles)	54H (1単位)	深江 裕忠
科目区分	能力開発実技		必修 / 選択	
授業形態	演習			
授業方法	対面授業 オンデマンド授業 (Moodle) オンライン授業 (Teams)			
履修年次 開講時期	1年次 前期		必修	

授業の目的と概要
職業能力開発の発展や改善・問題解決に資するため、職業能力開発についてその目的・基本理念を基礎とした視点で調査する能力を習得する。

到達目標
1 職業能力開発の目的・理念の特徴について、具体的な公共職業能力開発施設の事業を事例として説明できる。 2 職業能力開発の沿革を踏まえ、事例を通して現況の課題を析出できる。 3 職業能力開発の目的・理念の実践者としての職業訓練指導員の業務・役割について事例から説明できる。 4 公共職業能力開発施設の事例を通して、関係機関に対する職業能力開発施設の業務・役割について説明できる。

授業計画		備考
1	1 . 所属施設調査 (1) 組織構成 (2) 各部門の事業内容・実績 (3) 所属施設の沿革 (4) 訓練業務に関するコスト (5) 地域ニーズ	Moodle
2		
3		
4		
5		
6	2 . 調査結果の発表	Moodle
7		
8	3 . 他施設との比較調査	Moodle
9		
10		

評価方法	調査レポート 40%、発表スライド 40%、比較調査レポート 20%
教科書及び参考書	教科書：自作テキスト
主な使用機器等	パソコン、Moodle
その他	